

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年四月度 入選句（投稿総数千八百七十八句・小中学投句数八百七十五句）

特選

選者 遠藤 幹郎

桜散り風が花びら巻きあげる 美濃加茂市 豊福 心渚(中二)

写生(観察)がよく効いた一句です。地上に散った桜の花びらが、一陣の風によつて舞い上がる様子があざやかに詠い上げられました。「巻き上げる」という表現が、その場の様子を生き生きと表すことに成功しています。

春一番あれあれあれとばされる 大垣市 水野 はるか(小三)

「春一番」は、立春後、はじめて吹く強い南寄りの風をいいます。(春の季語)この春一番に作者自身が、吹きとばされそうになったというのです。思わず口ずさんでしまった言葉を「あれあれあれ」と、七音でそのままに詠ったところが、読み手の心を引きつけます。

水面に写る桜と散る桜 美濃加茂市 山田 陸斗(中二)

リズムカルな調べのある一句です。水面(川や池の)に写った満開の桜と、水面に静かに散り浮く桜をとらえた写生の効いた一句に仕上がりました。咲く桜と、散る桜の二様を水面に映し出したところが見事です。読者にも、その映像が目に浮かんでくるようです。

秀逸

チューリップ空を見上げて背伸びする 美濃加茂市 伊藤 理子(中二)

卒業式思い出うかび涙ふく 美濃加茂市 堀部 加奈(中二)

色々な思いをかかえ卒業だ 美濃加茂市 藤吉 璃奈(中二)

朝起きて窓をあければ春の色 美濃加茂市 長谷川 夏来(中二)

桜見て思い出たくさんよみがえる 美濃加茂市 田辺 彩乃(中二)

ばあちゃんとはじめていったつくしとり 大垣市 たかつ りの(小三)

しゃぼん玉なな色きれいわれちゃった 大垣市 まつおか たく(小三)

春風がぼくのストレスもち去った 大垣市 松原 大悟(小四)

山笑う白から緑へ服着がえ 大垣市 岡本 大岳(小五)

春の風手紙を運ぶ郵便や 大垣市 辻井 美葵(小五)

入選

ありがとう平成最後の卒業生 美濃加茂市 土谷 健斗(中二)
 新学期 心新たに走り出す 美濃加茂市 山口 幸乃(中二)
 おじいちゃん若鮎たくさんつつてきた 美濃加茂市 額 纈 陽向(中二)
 花開く未来に向かって進み出す 美濃加茂市 秋 松 玲雄(中二)
 小さな芽いろんな色を咲かせてく 美濃加茂市 松 岡 明里(中二)
 鳥の巣にひながたくさんうまれてる 大垣市 松 本 知起(小六)
 見上げればとびかう燕と青い空 大垣市 菱 田 陸人(小六)
 父さんと散歩のと中春の月 大垣市 光 井 智輝(小六)
 つくしたち田んぼのすみでせいくらべ 大垣市 甲 林 美来(小六)
 たんぽぽの綿毛がふわり旅に出る 大垣市 三 輪 柚花(小六)

入選

おばあちゃんらいねんもまたおはなみしよ 瑞穂市 西 原 悠登(小二)
 おおがきのさくらちるちるふなくだり 岐阜市 仙 波 孝悠(年長)
 通学路たんぽぽ見つけしやがみこむ 不破郡垂井町 三 島 歌純(中一)
 いちがつきあるくのおそいいちねんせい 大垣市 高 田 杏菜(小三)
 さえずりがきこえてくるよどこからか 大垣市 北 村 あおい(小三)
 はちさんがぶんぶんとぶよおさんぽだ 大垣市 残 馬 迅(小三)
 タンポポがたいようあびてきらきらだ 大垣市 小 林 ふき(小三)
 ちようちよがねおはなにとまりみつすうよ 大垣市 西 村 しゆあ(小三)
 蒲公英のわたがふわりと飛んでいく 大垣市 若 園 理央(小五)
 れきしあるおおがきじょうに春が来た 大垣市 なる毛 ことみ(小四)

選者吟

国盗りの天守押し上げ椎若葉

幹 郎